

# 2 教員研修パッケージ

Ver.04

(Package 1) すべての教員対象研修

(Package 2) 専門性向上研修 (ケース会議の運営)

群馬県教育委員会特別支援教育課  
令和3年3月

この冊子は、平成26年度から令和2年度エリアサポートモデル校（発達障害理解推進拠点事業を含む。）における実践研究の成果をまとめ、他の小中学校等に普及させる目的で作成しました。

パッケージとは、特別支援教育に係る取組の内容及び方法、連絡・調整の手順や情報など、関連する様々な要素を冊子にまとめたものの名称として使っています。

この「教員研修パッケージ」は、教職員研修を実施する際のアンケート、講師、講義等の企画・構成、ケース会議の進め方など、一連の手順とその内容を包括した資料として冊子にまとめ、学校で活用できる形にしたものです。

※ パッケージの種類

- 1 学校サポートパッケージ
- 2 教員研修パッケージ（本冊子）
- 3 児童生徒の障害理解教育パッケージ
- 4 保護者向け研修会・講演会パッケージ

## 2 教員研修パッケージ

※ すべての教員対象研修とは、全教職員が身に付けるべき基礎的な知識・技能に関する研修のこと。発達障害の特性理解や適切な指導・支援等について研修を行う。

※ 専門性向上研修とは、特別支援学級担任、通級による指導の担当教員、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、特別支援教育支援員、スクールカウンセラー等を対象とした、少人数で実施する専門研修（ケース会議の運営、情報の共有など）のこと。

(Package 1) すべての教員対象研修	
Step 1 教職員の研修ニーズの把握（アンケート）	アンケート用紙【資料 1】
DATA 1 これまで県が依頼した本事業に係る講師一覧	講師一覧 【資料 2】
Step 2 講師を招いての講義・講話の持ち方（事例 1～4）	講話等の持ち方【資料 3】

(Package 2) 専門性向上研修（ケース会議の運営）	
Step 1 ケース会議の進め方のポイント確認	会議の進め方 【資料 4】
Step 2 ケース会議における事例提供シート作成	事例提供シート【資料 5】
Step 3 ケース会議における参加者記録カード活用	記録カード 【資料 6】
Step 4 ケース会議における意見のまとめ方	意見のまとめ方【資料 7】

# 【資料 1】教職員の研修ニーズの把握(アンケート)

## 「発達障害理解に関する研修希望調査」

1 発達障害に関して、どのような内容を研修したいと思いますか。希望する項目に○印をつけてください。(複数可)

- 発達障害全般について知りたい
- 発達障害のうち、特に学習障害について知りたい
- 発達障害の特性について知りたい
- 発達障害の子どもに対する具体的な対応方法について知りたい
- 発達障害かどうかを判断する基準、検査方法を知りたい
- 学級集団の中で、発達障害の児童生徒をどのように生かすのかを知りたい
- 悩む子ども自身の言葉や、一人一人の個性や可能性について理解を深めたい
- 「見えにくさ」「聞こえにくさ」体験や、不安やストレス等の感情体験を経験したい
- パワーポイントやアニメーション、音声等も活用して視覚的・聴覚的な疑似体験のできるプログラムをお願いしたい
- 座位でできる疑似体験を通して、障害者の不自由さ等について体験したい
- 「苦手なものがあっても、個性を伸ばしていけばよい」と思わせる内容にしてほしい
- 発達障害に関する相談をする場合の連絡先、専門機関を知りたい
- 専門医の診断を受けた方がよいのか、保護者にどのように説明したらよいのかについて知りたい
- 発達障害の子の進学、進路についての情報を教えてほしい
- その他

2 児童生徒に対する発達障害理解教育を行うにあたり、不安や悩んでいることはありますか。該当する項目に○印をつけてください。(複数可)

- 発達障害に関する学習を進めていくと、発達障害の子に対し、周りの子が障害のある者と見なすようにならないか心配である
- 発達障害の子に対し、周囲の子からどのような反応が現れるのか心配である
- 発達障害の子が不安にならないか心配である
- 当該の子が発達障害の話題をどのようにとらえるかが心配である
- 発達障害の話題の提示で、当該の子が傷つくような状況が起きないか心配である
- 発達障害という言葉を児童生徒に伝えて学習する方がよいのか迷っている
- 発達障害のある児童生徒を特定して学習をする方がよいのか迷っている
- 特定の子に特別の支援を行うことが、他の児童生徒にとって不公平感を持たせることにならないか心配である
- その他

3 その他で、研修の中で扱ってほしい内容等がありましたら、お書きください。

## 【資料2】 これまで県が依頼した本事業に係る講師一覧

### ○ すべての教員対象研修

#### 1 外部講師(敬称略)

講義(H26,27) 大阪大学大学院(大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学)  
連合小児発達学研究所 特任講師 和久田 学

「子どもの行動を考える ～新しい生徒指導～」(H26)  
「発達障害等、特別な支援を要する児童の理解と支援」(H26)  
「特別支援教育に係る校内体制について」(H26)  
「子どもの育ちを考える」(H26)  
「子どもの行動を考えた新しい生徒指導」(H27)  
「子どもの行動を育て、支援する」(H27)  
「子どもを科学的にとらえた新しい生徒指導」(H27)  
「子どもの行動を考えた『学校としての取組』」(H27)  
「子どものこころの発達に寄り添う～科学的根拠に基づいた支援のあり方～」(H27)

講義(H26) 名城大学大学院 曾山 和彦  
「特別支援教育の視点と学びのユニバーサルデザイン」

講義(H26~R2) NPO法人リンケージ理事長 石川 京子

「分かりやすく伝えるために」(H26)  
「発達障害等のある生徒理解と具体的対応について」(H27)  
「特別支援教育の考え方を踏まえた指導・支援」(H29)  
「子ども一人一人の理解とその支援方法」(H29)  
「発達障害のある生徒理解と対応方法について」(H30)  
「特別支援教育の考え方を踏まえた指導・支援」(R1)  
「発達障害の理解と支援～本人・保護者・周りへの対応を例に～」(R1)  
「特別支援教育の考え方を踏まえた指導・支援」(R2)  
「発達障害の理解と支援～本人・保護者・周りへの対応を例に～」(R2)  
「発達特性の5つグループから対応を考える」(R2)

講義(H27,29) 日本大学文理学部心理臨床センター 臨床心理士 加藤 弘美  
『発達障害の特性理解』について  
「発達障害の特性・理解について」

講義(H27~R1) anomira 代表(作業療法士) 北爪 浩美  
「発達障害のある子どもへの支援」(H27)  
「発達障害のある子どもへの支援」(H29)  
「発達障害の理解と発達障害のある子どもへの支援」(H30)  
「発達障害のある子ども理解のために知っておきたいこと」(H30)  
「発達障害のある子供への支援」(H30)  
「発達障害のある子供への支援」(R1)

講義(H28) 日本授業UD学会 埼玉支部副代表 笠原 三義  
「授業のユニバーサルデザイン」

講義(H29,30) 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 臨床心理士 小池千鶴子  
「子どものこころの発達に寄り添う～二次障害の実態とその予防～」

## 2 特別支援教育課指導主事

講義(H26) 群馬県教育委員会特別支援教育室指導主事 高橋 玲  
「特別支援教育の視点を取り入れた授業の実際」

講義(H27) 群馬県教育委員会特別支援教育室指導主事 井草 昌之  
群馬県立吾妻特別支援学校専門アドバイザー 中曾根 良雄  
「どの子にも分かる・できるためのユニバーサルデザインの具体例・実践例の紹介」  
「わかって、楽しい授業をするために～気になる子へのサポートから～」

講義(H28) 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 近藤 千香子  
「特別支援教育の視点を取り入れた授業」

講義(H29) 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 狩野 等  
「発達障害の正しい理解について」

講義(H29,30,R1) 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 宮村 奈々江  
「発達障害の理解と支援」

講義(H29) 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 藤生 雅代  
「分かりやすく伝えるために」

講義(H29) 群馬県教育委員会特別支援教育課 指導主事 井草 昌之  
群馬県立吾妻特別支援学校専門アドバイザー 中曽根 良雄  
「わかる授業をするための近道」

講義(H30) 群馬県立特別支援学校専門アドバイザー 長谷川 健之  
群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 長谷川 剛広  
「わかりやすい授業の基本として押さえておきたい項目」

講義(R1) 群馬県立高崎特別支援学校専門アドバイザー 大塚 紀仕子  
群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 菅野 剛  
「わかりやすい授業の基本として押さえておきたい項目」

講義(R1) 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 菅野 剛  
「発達障害の正しい理解について」

講義(R1) 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 長谷川 剛広  
「みんなが活躍できる授業を実施するために押さえておきたいこと」

### 3 特別支援学校専門アドバイザー

講義(H26) 群馬県立高崎特別支援学校専門アドバイザー 狩野 進  
「通常学校における特別な支援の必要な児童への具体的な支援」

講義(H26,R2) 群馬県立しらがね特別支援学校専門アドバイザー 尾岸 純子  
「特別な配慮が必要な子へのかかわり方」  
「通常の学級における発達障害児の支援について」

講義(H27) 群馬県立館林高等特別支援学校専門アドバイザー 中里 真利子  
『発達障害特性理解』～学習障害（特に「読み書き障害」）に焦点を当てて～

講義(H28,R2) 群馬県立渡良瀬特別支援学校専門アドバイザー 植木 あゆみ  
『気になる子』への配慮～授業でのポイント～  
「発達障害について～気になる子への理解と支援」

講義(H28) 群馬県立館林特別支援学校専門アドバイザー 須永 里紗  
『気になる子』への配慮～授業でのポイント～

講義(H30) 群馬県立富岡特別支援学校専門アドバイザー 神田 珠美  
「通常の学級における特別支援教育～特別ではない特別支援教育を目指して～」

講義(R2) 群馬県立藤岡特別支援学校専門アドバイザー 齋藤 裕章  
「発達障害の理解と支援～連続性を感じながら～」

講義(R2) 群馬県立沼田特別支援学校専門アドバイザー 長谷川 健之  
「特別支援教育について」



## ○ 専門性向上研修

班別協議 大阪大学大学院 連合小児発達学研究所 特任講師 和久田 学  
(H26) NPO法人リンケージ理事長 石川 京子  
「発達障害等、気になる生徒に係る情報の共有」

ケース会議 群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部 教授 北爪 浩美  
(H26) 群馬大学医学部附属病院 精神科神経科 医師 藤平 和吉

ケース会議 群馬大学医学部附属病院 小児科 医師 岡田 恭典  
(H27) 群馬大学教育学部 臨床心理士 安田 淑美  
NPO法人リンケージ 理事長 臨床心理士 石川 京子

ケース会議 あがつま相談支援センター 臨床心理士 八重樫 陽子  
(H27,28) 群馬リハビリテーション病院 作業療法士 市川 亮太

ケース会議 群馬大学教育学部 教授 霜田 浩信  
(H27) NPO法人リンケージ 理事長 臨床心理士 石川 京子  
スクールカウンセラー (太田市担当) 伊藤 洋子  
群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部 教授 北爪 浩美

ケース会議 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 臨床心理士 小池 千鶴子  
(H28, 29)

ケース会議 スクールカウンセラー 伊藤 洋子  
(H28) NPO法人リンケージ 理事長 臨床心理士 石川 京子  
群馬県立沼田特別支援学校専門アドバイザー 長谷川 健之

ケース会議 群馬県立富岡特別支援学校専門アドバイザー 神田 珠美  
(H29) 群馬県立吾妻特別支援学校専門アドバイザー 中曽根 良雄  
群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 藤生 雅代  
群馬県立館林特別支援学校専門アドバイザー 須永 里紗  
anomira 代表 作業療法士 北爪 浩美

ケース会議 anomira 代表 作業療法士 北爪 浩美  
(H30) 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 臨床心理士 小池 千鶴子

演習(H26) 群馬県教育委員会特別支援教育室指導主事 高橋 玲  
「ケース会議(60分)の進め方」

演習(H28) 群馬県立渡良瀬特別支援学校専門アドバイザー 齋藤 裕章  
「発達障害等、気になる児童に係る学びの場について」

講義(H27) 群馬県立渡良瀬特別支援学校専門アドバイザー 植木 あゆみ  
「ケース会議の進め方」

## ○ 児童生徒を対象とした障害理解教育

講演(H26) 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園診療部長 医師 有賀 道生  
「自信をもって生きよう ―自己肯定感を高めるために―」

授業(H26) 群馬県教育委員会特別支援教育室指導主事 井草 昌之  
群馬県立高崎特別支援学校専門アドバイザー 狩野 進  
「自分で考えて行動しよう」(学級活動(2)ウ)

授業(H26) 群馬県教育委員会特別支援教育室指導主事 近藤千香子  
群馬県立渋川特別支援学校専門アドバイザー 齋藤 裕章  
「得意なこと、苦手なことについて考えよう」(道徳2-(2))

授業(H27) NPO法人リンケージ 理事長 石川 京子  
東毛若者サポートステーション 真木 寛

授業(H27) 群馬県立吾妻特別支援学校専門アドバイザー 中曽根 良雄  
「いいところを見つけよう」(3年学活)  
「うれしくなる言葉を見つけよう」(4年学活)  
「チームビルディング」(5年学活)  
群馬県教育委員会特別支援教育室指導主事 井草 昌之  
「自分で考えて行動しよう」(6年学級活動(2)ウ)

授業(H28) 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 井草 昌之  
障害を感覚的に理解する」(中1道徳)

授業(H29~R2) NPO法人リンケージ 理事長 石川 京子  
「チームビルディング」

○ P T A 役員、保護者等を対象とした研修会・講演会

1 外部講師

講義(H26,27) 大阪大学大学院連合小児発達学研究所 特任講師 和久田 学  
「子育てを科学する」  
「子どもの行動を科学的にとらえて支援する」

講義(H27) 群馬大学非常勤講師 臨床心理士 安田 淑美  
「さまざまな子どもの発達を考える」

講話(H27,R1) anomira 代表(作業療法士) 北爪 浩美  
「子どもを育てる魔法の言葉」  
「子どもの成長を促す接し方～脳の発達に視点を当てて～」

講話(H28) 障害者相談支援センター希望の家 相談支援専門員 星野 敏江  
「子どもを育てる魔法の言葉」

講話(H28) 群馬県立発達障害者支援センター 金子 章子  
「ほめる・認める子育てのポイント～否定的な関わりから肯定的な関わりへ～」

講話(H29) 日本体育大学 児童スポーツ教育学部 准教授 宇部 弘子  
「子どもを伸ばすための正しい理解と適切な支援のあり方」

講話(H30) 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 臨床心理士 小池 千鶴子  
「ほめて育てる子育てのコツ」

講話(H30,R1) NPO法人リンケージ 理事長 臨床心理士 石川 京子  
「今日からできる子どもの自信を育むかかわり」  
「子育ておけるヒント～上手なほめ方と伝え方～」  
「みんな違ってみんないい～心と脳の発達～」

講話(R1) 玉村町立芝根小学校スクールカウンセラー 大場 陽子  
「子どもたちの最適学習環境～特別を特別ではなくす日常のために～」

## 2 特別支援教育課指導主事

講話(H29) 群馬県教育委員会特別支援教育課指導主事 狩野 等  
「子どもの発達とかかわり方について～上手なほめ方と叱り方～」

## 3 特別支援学校専門アドバイザー

講話(H26,R2) 群馬県立しろがね特別支援学校専門アドバイザー 尾岸 純子  
「子どもの成長を支える支援を考える」  
「自分に自信を持てる子を育てるための秘訣」

講義(H27,28) 群馬県立吾妻特別支援学校専門アドバイザー 中曾根 良雄  
「家庭での場面あるある」

講話(H29) 群馬県立富岡特別支援学校専門アドバイザー 神田 珠美  
「子育て講話」

講話(H29) 群馬県立館林特別支援学校専門アドバイザー 須永 里紗  
「ほめて育てる、子育てのコツ」

講話(H30) 群馬県立渡良瀬特別支援学校専門アドバイザー 植木 あゆみ  
「子育て講話」

講話(R1) 群馬県立吾妻特別支援学校専門アドバイザー 田中 由香里  
「子育て講話」

講話(R1,2) 群馬県立沼田特別支援学校専門アドバイザー 長谷川 健之  
「子育て講演会」  
「子育てについて」

## 【資料3】講師を招いての講義・講話の持ち方

### ◎事例1 「子どもの行動を考える ～新しい生徒指導～」(90分の講義)

#### ○ 「行動」のとらえ方(20分)

- ・行動とは何か
- ・死人テスト、IBSOテスト
- ・「しかる」ことのリスク
- ・行動を定着させる
- ・好子についての注意

- ・行動をとらえる
- ・行動の原理と問題行動
- ・学校でのABC分析
- ・問題行動の先行条件
- ・セルフマネジメント
- ・自己理解が重要
- ・結果へのアプローチ
- ・代替スキルの獲得
- ・コミュニケーションスキルの獲得

#### ○ 新しい生徒指導(30分)

- ・新しい生徒指導
- ・重点として
- ・発達障害の子ども
- ・発達障害の子どもの支援
- ・発達障害と問題行動
- ・気になる言葉
- ・日本の子育て文化として
- ・自己肯定感とは
- ・自己肯定感支援の3つのアプローチ
- ・個人と環境の相互作用

- ・何が問題なのか
- ・自分たちを守る方法として
- ・H市の調査
- ・一括検定
- ・問題校への予防的支援

#### ○ 「ルール」のとらえ方(30分)

- ・よくありがちな校則
- ・何が問題なのか
- ・ルールが崩れる理由
- ・ルールを設定するために
- ・ルールを分かりやすく
- ・ルールの指導方法を明らかにする
- ・教室の「当たり前」を確認する
- ・当たり前が当たり前か

- ・学校風土の個人因子
- ・全体支援と個別支援のバランス
- ・意図的に教える
- ・当たり前が成立しているか
- ・子ども自身がチェックする

#### ○ 介入支援、自覚促進質問(10分)

- ・生徒の挑戦的態度への対応
- ・3 Min ルール
- ・まとめ

- ・挑戦行動への対応
- ・モデルで理解する
- ・介入支援の基本的な考え方
- ・ルールが守れなかったとき
- ・いくつかの戦略

※左側は是非聞きたい内容群で、下線部は特に聞きたい内容とした。

※右側は時間が許せば盛り込んでほしい内容とした。

◎事例2「発達障害等、特別な支援を要する児童の理解と支援」(90分の講義)

○ 脳とこころの発達 (20分)

- ・脳画像の貢献
- ・発達障害とは
- ・日本の子育て文化として
- ・気になる言葉

- ・不十分なデータ、もしくはデータの決定的不足
- ・先行研究を活かすという視点の欠如
- ・包括的システムと具体的対策の提案がない
- ・学校現場の問題に変わるならば

○ 行動を育てるために (20分)

- ・行動を育てるには?
- ・やる気にさせるには?

- ・行動とは何か?
- ・行動を具体化する
- ・死人テスト
- ・IBSOテスト

○ 行動の支援 (個別への支援) (25分)

- ・行動には原理がある
- ・自己肯定感
- ・「しかる」ことのリスク
- ・ABC分析

- ・「叱る」の影響
- ・でも「叱ってしまう」という人に
- ・子どもに教えるとは
- ・子どもに「教える」時に
- ・機能分析

○ 集団への働きかけ (25分)

- ・将来のために、今、考えるべきこと
- ・学校風土とは
- ・学校風土の個人因子
- ・学校風土の環境因子

- ・学校安全調査
- ・学校の集団構成
- ・保護者対応

※左側は是非聞きたい内容群で、下線部は特に聞きたい内容とした。

※右側は時間が許せば盛り込んでほしい内容とした。

◎事例3 「特別支援教育の視点と学びのユニバーサルデザイン」

(90分の講義)

○ 気になる子の理解 (20分)

- ・ 特別支援教育に係る
- ・ 発達障害とは
- ・ 日本の文化、ブラジルの文化
- ・ やる気を持続させるために

- ・ リフレーミング

○ 学級集団づくりのために (30分)

- ・ ルール、規範を育てるには?
- ・ やる気にさせるには?
- ・ 一斉指導における個別の配慮

- ・ 集団における公平感の維持
- ・ ペナルティーの効果は?

○ 体験的活動、活動例紹介等 (30分)

- ・ 集団で取り組む関係づくり活動
- ・ 自己有用感、自己肯定感
- ・ ソーシャルスキルトレーニング
- ・ 構成的グループエンカウンター

- ・ 指導者が困っていることをどう伝えたらよいか
- ・ かかわりのエクササイズ

○ 集団づくりへのアドバイス (10分)

- ・ 実践をどのように自己評価するか
- ・ 育ちの違い文化の違い
- ・ 学校生活(環境)と個人因子

- ・ 子ども同士のピアサポート

※左側は是非聞きたい内容群で、下線部は特に聞きたい内容とした。

※右側は時間が許せば盛り込んでほしい内容とした。



◎事例4 「通常学校における特別な支援の必要な児童への具体的な支援」

(60分の講義)

○ 自閉症スペクトラム等について (10分)

- ・自閉症スペクトラム障害
- ・特別な支援の必要な児童とは
- ・保護者への対応
- ・教師の困り感は、児童の困り感

- ・「通常の支援」の土台の上に特別な支援がある
- ・スペクトラム (連続体) という概念

○ 個別の支援方法 (35分)

- ・表面に現れた行動 (現象)
- ・見立て、見取り、背景 (理解)
- ・支援方法 (対応)
- ・実際のケース

- ・行動の背景
- ・ある特性を持った子どもが実際に考えていること
- ・実際に取る行動
- ・完璧主義の子ども

○ 学級全体の中での支援方法 (15分)

- ・授業づくり
- ・授業をさせるもの

- ・具体的な発問
- ・ユニバーサルデザイン
- ・保護者対応について

※左側は是非聞きたい内容群で、下線部は特に聞きたい内容とした。

※右側は時間が許せば盛り込んでほしい内容とした。

## 【資料 4】 ケース会議の進め方のポイント

### ケース会議（60分）の進め方

#### ◎ 事前準備

事例提供シートの作成 → 【話し合いの相談記録】の活用も

専門アドバイザーが作成した書類等の活用も

- 主訴（教師の願い）は一点に絞り、具体的に
- ごく簡単でよい

#### 1 事例提供（状況を説明する） 5分

- 短時間で簡潔に
- これまで行ってきた教師の配慮・かかわり方とその効果を中心に

#### 2 情報収集（質疑応答で事例生徒の実態を明確にしていく） 10分

- 一問一答で簡潔に
- 参加者全員が質問する
- 質問には事実のみを答える
- 事例提供者のこれまでの取組を批判しない
- 他の質問や、質問への回答に対して批判的・否定的な発言をしない

#### 3 グループでの検討（解決すべき問題の発見、解決策の立案、理由を固める） 25分

- 4～7人程度の小グループで検討
- 得られた情報の中で、かかわり方や支援策を考える
- すぐにできそうな具体的な支援策を考える
- 箇条書きやキーワードのみでまとめる

#### 4 専門家の意見聴取（コンサルタントから助言を得る） 10分

- コンサルタントは自分の専門を明らかにした上で、子どもをめぐる困った状況や心配な状況に対して、何が問題であるのかを整理し、その課題に対して具体的に何から始めていけるかを助言する。

#### 5 まとめ（見方を変えて、事態を新たに見直す） 10分

- 新たな視点や考え方を取り入れ、実践できそうな支援策としてまとめる。
  - ・ 具体的で、すぐにできそうな支援策
  - ・ 無理のない目標であること
- 事例全体を振り返り、この事例、また、協議の中から何を学び取ったのかを考える。
- 事例提供者の感想

## 【資料5】 ケース会議における事例提供シート

### 事例提供シート (担任が事前作成)

- 1 気になることのうち、話し合いたいことを1つあげてください。

- 2 それはどんな状況の時にみられますか。

- 3 Aさんの実態・特徴をあげてください。

- 4 Aさんに対して、先生はどんな配慮やかかわり方をしていますか。

- 5 その配慮やかかわりによって、Aさんはどのようにになりましたか。

## 【資料 6】 ケース会議への参加者記録カード

### 参加者記録カード

【参加者の当日メモ用紙】

1 教師の願い

2 気になる行動を1つ

3 気になる行動を起こす背景（理由）は何か。

4 現在の取組でうまくいっていること。効果のあることは何か。

5 支援のアイデアを1つ。

☆「明日から、すぐにできる支援」という発想で。  
☆できるだけ、具体的に（誰が、いつ、どんなふうに）

## 【資料 7】 ケース会議における意見のまとめ方

### 話し合いの確認事項 (まとめで用いる様式)

- 教師の願い

--

- 児童生徒の目標等

〈中長期的な目標又は短期的な目標〉

〈目標達成に係る手がかり〉 (観察や担任からの情報)

〈手立て〉

- 1 か月後の様子 (1 か月後に記入する。)

--

## 事例提供シート（2年・男児）

1 気になることのうち、話し合いたいことをひとつあげてください。

一人で学習（授業）に取り組めるようになるにはどのような支援が必要か

2 それはどんな状況の時にみられますか。

苦手な学習の時（主に国語などの言葉に関する学習）や、関心をもって取り組み始めても、友だちよりもできなかったり、できないと感じると、すぐにやる気をなくしてしまうことが多い。

3 Aさんの実態・特徴をあげてください。

・明るく子どもらしい。人なつこい。優しい。お手伝いなどを進んでする。  
・外遊びや工作が好き。学種に関心がなくなってしまうと好きな作業をはじめ。  
授業中に教室の外に出てしまうことは減った。  
・言語に関することがとても苦手なので、読んだり書いたりする学習を嫌がる。算数は比較的好きで暗算などは得意だが、図形や文章問題などは嫌い。コツコツ取り組むことが苦手なので、九九の暗算に苦労している。

4 Aさんに対して、先生はどんな配慮や関わり方をしていますか。

・苦手な学習の時には、別の課題を用意することもあるが、少し頑張ればできそうな活動の時には、励ましながらなるべく参加するようにさせている。  
・一日の振り帰りをして帰すようにしている。（良いことも悪いことも）  
・学習中に急にやる気がなくなってしまった時には、本人が自分で気持ちを落ち着かせる時間をとるようにしている。  
・家庭での学習が難しいようなので、課題を放課後に一緒にやるようにしている。

5 その配慮や関わりによって、Aさんはどのようになりましたか。

・自分にできそうだと感じる学習には、進んで取り組めるときが増えてきた。また、苦手な学習の時も友だちや支援の先生の力をかりて、取り組もうとする姿が見られるようになった。  
・好きではない掃除当番の時も、友だちと一緒に少しずつ活動できるようになった。

## 事例提供シート（4年男児）

1 気になることのうち、話し合いたいことをひとつあげてください。

特別支援学級から通常学級に本年度移ってきた A 君に対して、学級の児童が理解を深めるための手立てについて

2 それはどんな状況の時にみられますか。

- ・ 学校生活の中で、皆と同じ行動がとれなかった時
- ・ 失敗をしたり、皆ができることをできなかった時
- ・ 特別の支援を要するような言動をとってしまった時

3 Aさんの実態・特徴をあげてください。

- ・ 真面目で、やるべきことはきちんとやろうと努力する。
- ・ 周囲に指摘され、しつこく言われると怒って大声を出したりする。短気でコントロールがきかなくなる。
- ・ 給食を食べるのが速く、おかわりもよくし、毎日食後にトイレに行く。

4 Aさんに対して、先生はどんな配慮や関わり方をしていますか。

- ・ 3年生まで特別支援学級で過ごしていたので、皆と同じにできないこともあるが、少しずつできるようになるので、色々教えてあげてほしい、というような話をしてきた。
- ・ できることは自分でやらせるようにした。できないことは、サポートしながら完成させるようにして、自信をもたせた。
- ・ 毎日「さよなら」をした後、残して一日を振り返らせ、がんばったことをほめ、いけなかったことは注意し（話し）て、ごほうびシールを毎日ノートに貼っていた。

5 その配慮や関わりによって、Aさんはどのようにになりましたか。

- ・ 担任に信頼を寄せてくれるようになって、困った時だけでなく、うれしい時も伝えてくれるようになった。

## 事例提供シート（5年男児）

- 1 気になることのうち、話し合いたいことをひとつあげてください。

頭にきたことがあると衝動的に相手に殴る蹴るの暴力を加える行動を抑えたい。

- 2 それはどんな状況の時にみられますか。

友達が冗談で言ったことやふざけて言ったことを真に受けて怒ったり、友達が話していることを自分のことと勘違いして頭にきたときなど。

- 3 Aさんの実態・特徴をあげてください。

普段は友達とも楽しそうに交流することができるが、相手が仲の良い子であろうと、頭にきたことがあると衝動的にとびかかり、殴る蹴るの暴力を加える。

学力も厳しく、特に算数は5年生の学習内容がほとんど理解できていない状況である。そのため、授業もやる気が見られないことが多い。自分がやりたくないことはやらないことが多く、清掃活動などもフラフラして何もしないようなことが多い。

- 4 Aさんに対して、先生はどんな配慮や関わり方をしていますか。

トラブルが起きた時は、すぐにAが一人だけになれる所に連れて行き、気持ちが収まるまでそっとしておく。10分～15分すると少し話ができるようになるので、それから原因などを訪ねる。授業では、Aが答えられそうな質問をしたり、プリント等の課題は、1つ2つでもできたことを認め、少しでも自信が持てるようにする。

- 5 その配慮や関わりによって、Aさんはどのようになりましたか。

気持ちが収まると、こちらが話すことを理解してくれることもあり、トラブルの後に相手に謝ることができることもある。

相手に衝動的に暴力を振るう行動は、なかなか改善は見られない。



## <ケース会議実施後の教員の感想より>

- ・ ケース会議でとりあげた事例は、自分のクラスにも当てはまる内容だったので参考になった。子どもたちに指導・支援していく際の言葉かけを見直したい。
- ・ 一人の児童に対し、手厚く関わるができる有意義な会議であると思う。専門家の先生のアドバイスもとても分かりやすく参考になった。
- ・ いろいろな方からの多様な見方が分かり、とてもよかったと思う。自分一人だと知らないうちに偏ったやり方になってしまっているのだなと感じた。専門家の先生の御意見も聞くことができ、大変安心できたし、新しいかかわり方のヒントもいただけ、よかった。
- ・ 参加者からアドバイスをいただいたり、良い方向に向かうように御意見をいただいたりした。専門家の先生からのお話の中で、知的に高くても情緒面（心の面）で幼い児童との接し方を考えていくことの大切さを教えていただいた。頭では善悪の判断が分かっているけども、本当の意味では理解できていないことが多いということ、本人に理解できるような（心の年齢に合った）言葉で話していくようにすること、「みたいだよ。」「～するといいね。」等、児童が前向きな気持ちになるような言葉遣いに心がけることも大切であるということ、等。優しい気持ちや思いやりの気持ちをもって行動できる児童もクラスには多くいるので、その子たちの気持ちを大事にしながら、数名の気になる児童に対して個別に丁寧に指導していく中で、気持ちを向かわせていきたいと感じた。このケース会議で事例を提供し、先生方からいろいろなお話を聞くことができ、気持ちがとても楽になった。自分だけで悩んでいても、なかなか解決できないことでも相談することで、道が少しずつ開けていくように感じた。とても充実したケース会議だった。このような機会が定期的にあるとうれしい。
- ・ 具体的な事例に即して活発に話し合うことができた。専門家の方からの指摘・助言は普段気付かぬ観点からの内容も多く大変参考になった。これからも年に二度程度こうした事例検討（ケース会議）が行われることを期待したい。
- ・ とても勉強になった。明日から自分の学級経営に生かしたい。また実施してほしい。
- ・ 大変勉強になった。特に、教員が出るべきなのかどうかといった部分（生育歴を調べるなど）は 医師との連携がその子を助ける大きな要素であることに気付けたことは自分にとって大きな収穫であった。自分たちだけの狭い狭い専門知識ではクリアできない大きな問題をすぐ身近に抱えていることにも改めて気付くことができたように感じている。
- ・ 今まで知らなかったことがたくさんあり、とても勉強になったと同時に難しさも感じた。いろいろ考えさせられ、とても有意義な時間だった。改めて子どもたちをよく見ていこうと思った。今回の専門家のような立場の方が、これから学校現場でも必要になってくるのでは。

- ・ 専門家の方の話を聞き、改めて児童本人の「心によりそう」ということが理解できた。しかし、これを理解で終わらせず、実践していくことが大切である。  
ケース会議の進め方もよかった。提供シートの作成、事前の働きかけ、準備等、きめ細かく段取りがなされていてよかった。
- ・ 医師の話聞かせてもらったり、話を聞いてもらったのは初めてだったのでとても勉強になった。改めて今回の事例児童への対応は難しいと感じたが、本人が“自分の居場所はあるんだ”ということ早く分かってくれればよいと思う。
- ・ ケース会議で取り上げる事例については、各授業で担当する職員や委員会、クラブ、通学班等がかかわる職員がそれぞれの立場での事例を出せると一人の児童を多面的に見られ、今後どのようにサポートしていけばよいか、深く検討できると思う。
- ・ 本校で初めてケース会議をもてて、とてもよかったと思う。校内の職員だけでもこのような機会をもち、一人の子をみんなで育てていく体制を強めていきたい。
- ・ 課題のある子について、学年会や職員会議で話されていることとは思いますが、より詳しく子どもについて知ることができた。複数の先生方、専門家の子どもの見方、対応の仕方など多面的に見ることができて参考になった。
- ・ ケース会議で挙げられた児童のことを考えることによって、自分が担任している児童の対応についても考えようとする時間を作ることができたのでよかった。またたくさんの先生方と意見を交流することによって、自分自身の捉え方や対応の仕方を見直すことができ、とても勉強になった。